

巻頭言**日本生物学的精神医学会への期待
～若手研究者育成プログラム～**

沼田 周助

徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

本学会は、生物学的精神医学研究を行う幅広い領域の研究者が入会する、精神医学の未来を切り拓く重要な学会の一つだと考えています。私は本学会に入会して以来、長年、諸先輩方にお世話になりっぱなしでありましたが、年齢とともに自身の役割も変わり、現在は本学会の「編集委員会」、「広報委員会」、「ブレインバンク委員会」、「将来計画委員会」で活動をしています。

いずれの委員会活動も重要ですが、その中でも個人的に一番思い入れがあるのは、「将来計画委員会」です。将来計画委員会が中心となって運営しているのが、「若手研究者育成プログラム」であり、その名前のとおり、学会として若手研究者を育成することを目的に作られたプログラムです。現代の精神医学は、分子レベルから脳のネットワーク、さらには行動に至るまで、幅広い領域での病態理解を深めつつあります。この急速に進展する分野において、次世代の研究者たちの役割はますます重要となっています。また、精神疾患の複雑な病態解明には、多様な視点と柔軟な発想が求められ、若手研究者がもつ斬新な視点や意欲的なアプローチは、研究の可能性を大きく広げる力を秘めています。私は、若手研究者育成プログラムの黎明期からプログラムに参加させていただく機会を得ました。当時、最先端を走る将来計画委員会の先生方から厳しく、優しく、ご指導いただき、幸運にも第1回の若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞を受賞させていただきました。

た。いまでこそ、本プログラムにて他大学の先生方から研究の指導を受けるとか、他大学の研究者と横のつながりを広げて交流することが当たり前になってきましたが、当時は大学間の壁は非常に高く、初めてプログラムに参加した際に感銘を受けたことを記憶しています。これまでの常識を変えた長年にわたる将来計画委員会の先生方のご尽力に感謝申し上げます。

現在は、池田匡志先生（名古屋大学）を委員長として、本学会の若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞を受賞した研究者を中心に将来計画委員会メンバーが構成されています。長年本学会の将来計画委員会の先生方をメンターとして、研究内容だけでなく研究キャリアの指導も受けて共に成長してきた仲間ですので、連携を密にして、アイデアを出して、引き続き、将来の生物学的精神医学研究を背負う人材の育成に努めたいと思います。国際的な研究の連携もますます重要性を増しており、若手研究者が海外の研究者と交流し、グローバルな視野で捉えることは、精神疾患の病態解明における新たな道を切り開く鍵となると思います。今後は、本プログラムや交流会への海外研究者の参加や意見交換などもあれば、より素晴らしいと考えております。

最後に、本学会の会員の皆様に対して、日頃からのご支援に感謝申し上げますとともに、本学会が若手研究者と共に精神医学の未来を形作る場となることを祈念いたします。



初期の若手研究者育成プログラム交流会の集合写真